

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙 I 5:16~18)

保育目標:	0歳児	・周りの友だちや保育者との関わりを楽しむ。
	1歳児	・神さまがくださったたくさんの恵みを味わって喜ぶ。
	2歳児	・自由に自分を表現し、周りに受けとめられて過ごす。 ・神さまの恵みを味わって感謝する。
	3歳児	・自分の思いを友だちや保育者に共感してもらい、自分で折り合いをつける経験をする。
	4歳児	・自分が感じて想像したことを工夫して思ったように表現する。 ・神さまの恵みを感謝する。
	5歳児	・友だちと相談することやアイデアを出し合うことで、思いの違いを調整して遊ぶ。神さまからの恵みを感謝して、周りの人たちと分かち合う。

ついこの間まで暑かったかと思ったら急に寒くなり秋も深まってきましたね。園庭に植わっている木々をみるとすでに赤や黄色に色づいている葉が見かけられます。また、沢山落ちていたドングリはすでに子ども達が拾い集め様々な遊びの中で活躍したり、赤く色づき食べ頃のザクロをブリッジから雨どいを使って落とし、嬉しそうにザクロの実を1粒1粒とり大切に食べていたり、園庭の自然を満喫している子どもたちの姿を多く見かけます。

先日のお父さんの会では、園庭の築山の整備を一緒に手伝ってくださりありがとうございました。乳児から幼児まで、築山で沢山遊んでいるからこそ土が減り、やせてきてしまいました。当日は、杵組みを3段にするためにチェーンソーで丸太をカットしカスガイで留め、あっという間に段組みが完成。土が崩れてこないように、タイヤと土嚢で築山の周りを囲い、シャベルカーやネコで土を運んだり、お父さん達と一緒にシャベルで土を山に入れました。滑り台も両脇を土嚢で囲いました。子ども達は登園してくると、築山の変化にすぐに気が付き、登ったり、滑り台をしたり…。園庭を裸足で遊んでいた

子ども達に、一緒に土山を足で踏んで固めようと誘うと、やって来てフワフワの土の上を走り始めました。「うわ〜気持ちいい!」と嬉しそうに何週も走る子ども達。足裏で感じる土の感触はまたひとしおですね。当日は、沢山の力作業にご協力下さったお父さん方、本当にありがとうございました。後日、足りない部分に土を入れさらに魅力ある築山にする予定です。

さて10月は子どもたちが楽しみにしていた遠足!特に年長組は、お泊りに代わる冒険遠足になりました。それも3クラスが9つのグループに分かれ、それぞれチームごとに行きたい場所を決めるという、大人にとってはハラハラドキドキな遠足。園から歩いて行ける場所を話し合っ決めていきました。それぞれのグループで沢山の候補場所が挙がっていく中、「歩いて行けるかな。」「あそこには〇〇があるから行ってみよう!」「本当はここに行きたかった…。」等、子どもたちの話し合いの中で色々な意見がでてきたようです。お互いが相手の話を聞き、意見を尊重し、みんなが納得した場所を決めていくこと、折り合いをつけることはとても難しかったと思います。それでも、子どもたちなりに相談して決めた「行き先」です。そこには、

「挑戦」もあつたでしょう。「不安やワクワク感」もあつたでしょう。子どもたちは願いを叶えるために、こども園近隣を毎日のようにお散歩に出かけました。子どもたちがお散歩としてではなく、「歩く練習!」と言って目標に向かって歩く姿を微笑ましく、また勇ましく思いました。当日は、遠足日和のなか出発。送って下さった保護者の方々も、子どもたちと同じように不安や期待が入り混じった気持ちだったのではないのでしょうか。遠足から帰ってきた子どもたちの姿は、出発する前と全く違った表情だったと思います。キラキラ輝き、自信に満ちた、そしてやり遂げたという達成感に満ち溢れていたはずです。

今回のこの経験は、きっと「生きていく力」になっていくと信じています。そして、私たちは、こども園に集う一人ひとりにこの「生きていく力」が培われていくよう子どもの育ちを支えていきたいと思ひます。

来月は収穫感謝礼拝があります。神さまから与えられている全ての物に感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思ひます

副園長 松下 成美